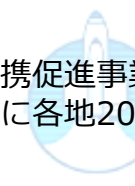




起業家教育事業 学びと社会の連携促進事業



平成29年度補正予算学びと社会の連携促進事業（起業家教育）では、全国6高等学校、4自治体を対象に各地20時間程度のプログラムを実施しました。



○自治体開催（50音順）

①埼玉県所沢市（2018/8/3～8/23）

和ヶ原商店街の活性化をテーマに、地域の高校生を募りプログラムを実施。5名の生徒が実際に商店街を歩き課題を発見し、自分たちが行きたくなる商店街にするビジネスを提案した。

②福岡県北九州市（2018/7/21～9/15）

「やりたいことで突き抜ける！」というテーマのもと、北九州市と共に、地元の高校や高専生が参加したプログラム。地域で活躍する先輩や、地元の起業家が日替わりでメンターとして参画し、身近な課題を感じる事柄を自分たちが楽しいと思える解決方法を探った。

④宮城県仙台市（2018/8/7～9/8）

東北の復興など社会起業（ソーシャルスタートアップ）をテーマとして、宮城県内の高校生を中心にプログラムを実施した。地域の課題や、社会課題など、生徒自らが問題意識を持つテーマを軸にチームでフィールドワークなども行いながら、解決するビジネスを考案した。

③北海道夕張市（2018/12/23～2019/1/14）

「夕張の未来づくりに向け、答えのない課題に立ち向かうプロジェクト」と題して、夕張市内外の高校生や大人を巻き込みプログラムを実施した。生徒が思い描く理想的な夕張をどうやって実現できるか、チームで取り組んだ。



○高等学校開催（50音順）

①青森県青森商業高等学校（2018/9/10～11/22）

1年生を対象に、地域課題への関心を高め解決するビジネスを考案するプログラムを実施。冬場の観光客をどう呼び込むか、商店街をどう盛り上げるか、短命県にどう向き合うか、などを考えた。

②石川県金沢高等学校（2018/8/7～8/19）

希望生徒を対象に生徒の身近な違和感を発見し、言語化していくプロセスをプログラムで実践した。左利き、ダイエット、部活動など、生徒の日常にスポットを当てた。

③香川県高松工芸高等学校（2018/6/18～2019/2/7）

3年デザイン科の課題研究と起業家教育をコラボレーション。琴電沿線活性化をテーマに、現地視察、仮説設定、解決するプロダクトのプロトタイプ制作、フィードバック、実地検証を行い、商店街の活性化に一躍買った。

④京都府須知高等学校（2018/9/28～2019/1/24）

食品科学科3年生の課題研究と起業家教育事業をコラボレーションさせた。食肉加工技術や、公園管理等のそれぞれの取り組みを、学校の魅力を伝えつつ、ビジネスにつなげるプログラムをクラスで考案した。



⑤長野県小諸商業高等学校（2018/9/25～2019/1/29）

1年生を対象に、一人ひとりが一つずつビジネスプランを考え、それらを掛け合わせ、ビジネスとして解決する方法を探った。買い物の効率化、山での遭難対策、孤独死などがテーマとして取り上げられた。

⑥福岡県福岡女子高等学校（2018/7/10～11/12）

2年生の希望生徒を対象にプログラムを実施。OG起業家や、女性らしさを活かしたビジネスで輝く起業家を講師メンターとして迎え、生徒が興味を持つ分野でどう課題解決していくかアドバイスをもらった。

【平成31年度起業家教育事業】

平成31年度は起業家教育の普及に努める。具体策として「標準カリキュラムの作成」を選択するのが妥当であると考えられる。起業家教育を実施するためには、ビジネスに対する肌感覚や知識が必要だが、多くの教員はビジネス経験に乏しく、自ら教材を作成することの難易度が高い。標準カリキュラムとして、進行表、指導マニュアル、授業資料（テキスト・ワークシート）を作成し、それを公開する。